

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤としながら、生涯学習の視点に立って、児童の個性を生かし可能性を引き出す教育を推進し、夢や希望をもって持続可能な社会づくりを担い得る、知・徳・体・情操の調和のとれた豊かな人間性を持ち、自ら学び、考え、行動する児童の育成を目指す。

かしこく やさしく がんばる 千寿の子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎「千寿プライド」一人一人がキラリと輝く学校 ・基礎学力が定着し、豊かな心が育ち、いじめを許さない学校 ・全教職員が創意を發揮し、熱意と誠意をもって、協働している学校 ・家庭、地域、異校種、関係機関等と連携し、安全・安心で開かれた学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が生まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・規範意識があり、協働の精神を持ち、他人を思いやることができる児童 ・大きな夢を持ち、自分の課題を最後までやり遂げる児童
○教師像	・安全、安心に配慮し、「子どもファースト」で児童一人一人を大切にした教育を推進する教師 ・子どもにとって、楽しい授業、よく分かる授業、自ら学びたくなる授業を工夫できる教師 ・保護者や地域の人々と連携し、児童や保護者、地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

平成31年4月より新校舎に移転し、4年目を迎えた。恵まれた教育施設を活用し、「子どもファースト」の教育活動に努めている。しかし、地域の再開発による児童数の増加が続いており、施設利用や通学路等における安全・安心の確保のために、家庭・地域・関係機関等との連携・協働した取組を推進していくことが本校の最優先課題となっている。昨年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、教育活動に多くの制約がある中であったが、学校全体で「心と生活の安定」「学習保障」「学力低下防止」を強く意識した取組を推進することができた。区調査（2～6年）においては、国語・算数の通過率がそれぞれ88.6%、88.3%と、目標とした水準を上回り、また、国調査（6年）では、国語の平均正答率で7P、算数の平均正答率で4P、都平均を上回った。また、単元テストの結果からも、基礎的な知識・技能の確実な定着と、思考力・表現力・判断力等の育成を両輪とした取組の成果を見て取ることができた。一方で、全ての学年において、振り返りや反復の機会の不足から学習内容が十分に定着していない児童、問題を自主的に粘り強く解決しようという意欲や根気が十分でない児童が、依然として相当数いること、合わせて、国語においては、「文章や話を正しく理解する力」、算数においては、「問題の内容や正しく把握する力」の育成を課題と捉え、その解決に取り組んだ。結果、2、3月の区調査問題を活用した定着度の確認において、通過率が国語84%、算数82%と、目標とした水準（通過率80%）を上回るなど、コロナ対策のための様々な制約があった中であつたが、取組の成果があつた。児童の心の育成については、コロナ禍にあつても、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のもと、組織的・計画的な取組を行うことができた。体力向上に資する取組についても可能な限り実施したが、体力の低下は顕著であり、今年度はこれに確実に対応していきたい。全面実施から3年目を迎えた学習指導要領の趣旨・内容の学校教育へのさらなる浸透を図るとともに、区によるICT環境の整備・向上を十分に生かして、国の掲げる「GIGAスクール構想」の実現に精力的に取り組んでいく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成			○	○	○
3	体力・運動能力の向上と健康の増進			○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）									
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学習の個別最適化と協働性の向上		○区調査の目標通過率 国、算ともに86%以上 ○単元テストの平均達成率 80%以上の児童：国・社・算・理のいずれも82%以上		○区調査の通過率 国語89.0%、算数90.2% ○単元テストの平均達成率80%以上の児童 国語82%、社会80% 算数78%、理76%（12月末現在）		区調査結果は目標を上回ったが、単元テスト結果においては国語科以外で目標を下回った。 ・学習の定着状況と具体的な取組は、 <u>6（1）を参照。</u>		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続・ 発展	「書く力」 の育成	全学年 全教科・ 領域	月1回 以上、年 間10回 以上	書き出し、要約、視点変換等、ポイントの明確化。第1、2学年は100文程度、第3～6学年は100～200文字程度の作文指導。	○各学年での進行管理 ○全学級提出	○100%実施	各学級において月1回以上、年間10回以上実施。	学校全体での継続的、組織的・計画的な実施が、児童の総合的な学力の向上につながっていると考える。	◎
2 継続・ 発展	「流暢な 読み」の獲得	第1学年 国語	各授業 補充的 な取組	授業での、特殊音節の指導の重点化。MIM-PMの実施と結果の検証及び定着の徹底。年3回の「音読力チェック」。	○指導及びMIM-PMの確実な実施 ○「音読力チェック」(7月、11月、2月)の実施	○1月MIM-PMで3rdステージ8%以下 ○「音読力チェック」の通過率 7月70%、11月75%、2月90%	○1月MIM-PMで3rdステージ19% ○「音読力チェック」の通過率： 10月87%、2月94%	3rdステージの割合は目標を達成できなかったが、「音読力チェック」のデータからは、概ね目標とした水準で「流暢な読み」の獲得が図られていると判断することができる。	○
3 継続・ 発展	基礎的な 知識・技能 の確実な 定着	第1、2 学年： 国・算、 第3～5 学：国・ 社・算・ 理	各授業 補充的 な取組	特段の支援が必要な児童や、定着の難しい内容の明確化。授業及び補充的な取組における指導の個別化・多層化の推進、A Iドリルの効果的な活用。	○区調査問題による定着度確認(2月)	○国・算とも通過率80%以上	○2月の定着度確認の通過率 国語79% 算数81%	今年度から導入されたA Iドリルの効果的な活用も工夫しながら、授業と補充的な取組を効果的に結び付けるように努めた。	○
4 継続・ 発展	思考力 ・表現力・ 判断力等 の育成	全学年 全教科・ 領域	各授業 補充的 な取組	言語活動の工夫・改善、ICTの積極的な活用、主体的・対話的な学習・活用型学習の充実。	○単元テストの「思考力・判断力・表現力」の観点	○国語・社会・算数・理科いずれも平均82%	○国語86% 社会86% 算数81% 理科82% (12月末現在)	今後も主体的・協働的な学びの充実を通して、考える力と表現する力の育成に努めていく。	◎

5 継続・ 発展	中学校に つながる 確かな英 語力の育 成	第5、6 学年 英語	各授業 補足的 な取組	教科英語の趣旨を踏 まえ、中学校に向けて 4技能をバランスよく 確実に育む授業と個別 支援の充実を図る。	○チェックテスト (9月、2月) ○区調査問題を活用 した定着度確認(2月)6年	○2回とも達成率 80%以上の児童 が90% ○通過率90%	○2回とも達成率 80%以上の児童 90%以上 ○6年(2月)の通 過率91%	コロナの状況を 勘案しながら児童 同士のコミュニケーション 場面も増 やすことができた。	◎
6 継続・ 発展	学びに向 かう力・人 間性の醸 成 家庭学習 の習慣化 自学自習 の定着	宿題は全 学年 自学自習 は第2学 年以上	家庭学 習	提出の徹底。自学自 習ノートの取組推進の ために「課題設定の方 法や取組の具体例を児 童と保護者に提示、模 範となる取組の紹介、 A Iドリルの効果的な 活用、「家庭学習マニ ュアル」の作成・浸透。	○全学級で提出状 況を記録 ○学力向上委員会 が毎月、取組状 況を確認	○宿題は全学年通 年。自学自習は、 第3学年以上は 通年、第2学年 は後期から実施 ○宿題提出率 95%、自学自習 ノート 提出率90%	○宿題、自学自習と もに、目標どおり に実施。 ○宿題提出率 92% 自学自習ノート 提出率88%	宿題、自学自習ノ ートのいずれにお いても、目標とし た水準をやや下回 った。次年度は、A I ドリルをより効果 的に活用できるよ うにしていきたい。	○
7 継続・ 発展	読書習慣 の確立	全学年 全教科・ 領域 業前・業 間・放課 後 家庭	原則毎 日	図書館行事の計画的 な実施(読書月間・特 別貸出・読書感想文コ ンクール・調べる学習 コンクール・図書館ボ ランティアや図書館支 援員との連携)。家庭読 書の推進。蔵書の増加。	○読書量の目標達 成者 ○本を読むことが 楽しいと感じて いる児童	○第1学年60冊、 第2学年70冊、 第3学年80冊、 第4学年3000 ページ、第5、 6年4000ペー ジの達成者： 80% ○本を読むことが 楽しいと感じて いる児童80%	○読書量の目標達 成者85% (2月末現在) ○本を読むのが楽 しいと感じてい る児童：前期 83%、後期82%	一人一台端末の 実現を受け、学校に おいても家庭にお いても、児童の読書 に関わる機会が大 きく減ってきてい るが、今後も読書の 意義を伝えながら、 取組の充実に努め ていく。	◎
8 継続・ 発展	I C Tの 効果的な 利活用	全学年 全教科・ 領域	各授業 補足的 な取組	足立スタンダードに 基づいた授業における I C T機器の効果的な 利活用。個別指導・補 足的学習・家庭学習等 でのA Iドリルの計画 的活用、協働的な学習 場面の充実。	○授業改善に対す る児童の評価 ○A Iドリルを週 1回ペースで計 画的に活用する 教員の割合	○「I C Tを使う ことで授業が楽 しく、わかりや すくなった」と 感じている児童 90% ○A Iドリルを計 画的に活用する 教員100%	○「I C Tを使うこ とで授業が楽 しく、わかりやす くなった」と感じ ている児童：前期 95%、後期95% ○A Iドリルを計 画的に活用する 教員100%	I C Tの活用が、 児童の意欲と理解 の向上に結び付い ている。学校内外 での研修機会を通 して、教員の活用 意欲やスキルも、 確実に高まっている。	◎

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全ての児童の明るい学校生活の 実現	「学校は楽しい」と感じている児童 95%、「子供は、楽しく学校に通っている。」 「教員は、子供の困っていることや悩みなど を理解し、誠実に対応している。」への保護 者の肯定的な評価95%	「学校は楽しい」と感じている児童：前 期86%、後期86%。保護者の肯定的評価 「子供は、楽しく学校に通っている。」： 前期96%、後期96%。「教員は、子供の 困っていることや悩みなどを理解し、誠 実に対応している。」：前期90%、後期88%	組織的な取組の 徹底に努める中で、 児童の心と体の健 康づくりを推進す ることができた。	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
実態把握・対応の徹底と児童の自主性・主体性の向上	いじめとして 50 件以上の案件を認知 学校生活の改善に係る児童の主体的な取組の機会を年 2 回	「可能な限り児童とともに」の徹底、「いじめ防止基本方針」に基づく児童の自主的・主体的な取組の推進、「いじめ防止・対処授業」の充実。	いじめとして 1 月までに 97 件の案件を認知 学校生活の改善に係る 児童の主体的な取組を 年 2 回以上実施	学校全体としてのアンテナの高さは確実に高まっている。児童の自主的・主体的な取組の機会も、確実に確保することができた。	◎
多様性尊重の意識の浸透、他者理解・異文化理解の充実	体験的な学びの機会の確保(各学年で年間 4 回以上)	「ESD」の推進、外国語教育の充実、近隣幼稚園・保育園・中学校・都立特別支援学校等との連携・交流。	各学年で体験的な学びの機会を年間 4 回以上確保	「持続可能」という観点から考えた時、家庭・地域との連携・協働の強化は必要不可欠であり、是非、推進していきたい	◎
基本的な生活習慣の定着	「教員は、子供にあいさつや、返事をする事、マナー、きまりを守る大切さを教えている。」への保護者の肯定的な評価 90%以上	代表委員会を中心とした児童の自主的な取組の充実、保護者・地域との連携。	「教員は、子供にあいさつや、返事をする事、マナー、きまりを守る大切さを教えている。」への肯定的な評価 前期 91%、後期 92%	数値的には目標とした水準を達成できたが、定着の質を確実に高めていくことが、大きな課題である。	◎

重点的な取組事項－3 体力・運動能力の向上と健康の増進					
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
習慣の定着と主体性の向上	体力テストで都平均以上の種目 60%、総合評価で AB 評価 40%以上、DE 評価 30%未満	都平均以上の種目 33.3% 総合評価で AB 評価 23.7% DE 評価 40.8%	運動の経験・機会の減少の影響が強く出た結果となった。	△	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
健康な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはん・歯みがき・運動習慣の定着状況が 80%以上、むし歯の保有者が 10 月の段階で 7%以内・2 月の段階で 4%以内、1 月測定時の肥満度 20 以上児童を 7%以下	定着状況の把握(年間 3 回)、養護教諭・栄養職員の専門性を生かした指導の実施、家庭・関係機関と連携しての「むし歯ゼロ」の推進。	定着状況 早寝 前期 72%、後期 69% 早起き 前期 65%、後期 63% 朝ごはん 前期 95%、後期 93% 歯みがき 前期 65%、後期 65% 運動習慣 前期 86%、後期 88% むし歯の保有者 6月 8.6%、11月 3.1% 2月 3.0% 1月測定時肥満度 20 以上の児童 7.2%	定着状況は習慣化を確認するために調査時期を変更した。早寝・早起き・歯みがきについては、家庭との連携のもと、習慣化を徹底していきたい。むし歯の保有者は、11 月末時点で目標を達成。肥満度については、目標とした水準をやや下回る結果となった。	○

多様な運動機会の場 と内容の充実	「運動が好き・楽しい」と感じている児童が 95%以上	「体力向上推進プラン」に基づく継続的な取組と情報提供の徹底、「動きの洗練性を高める授業」「協力・協働の意義や重要性を実感できる授業」の工夫	「運動が好き・楽しい」と感じている児童 84%	コロナの影響による二極化が顕著であるが、運動機会の確保をより強く意識しながら、児童のスポーツ志向を高めていく。	○
---------------------	-------------------------------	---	-------------------------	---	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

依然として、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける中であったが、「創立20+1周年」を「新たな時代の出発点」と位置付け、①GIGAスクール構想（区によるICT環境の整備）、②SDGs（持続可能な開発目標）、③新しい生活様式（新型コロナウイルス対策）を踏まえながら、「子どもファースト」の教育活動の推進に努めることができた。

【「学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）」について】

区調査（2～6年）では、国語の通過率 89.0%、算数の通過率 90.2%と、目標とした水準を上回り、また、国調査（6年）では、国語の平均正答率で5P、算数の平均正答率で2P、理科で9P、都平均を上回った。また、単元テストの結果からも、知識及び技能の確実な定着と、思考力・表現力・判断力等、そして、学びに向かう力・人間性等の育成を目指した取組の成果を見て取ることができた。一方で、区調査の結果より、学校として以下のような課題を見出し、改善に取り組んだ。

ア 学力向上アクションプランに係る具体的な取組について

- | | |
|------|---|
| 【課題】 | ・国語、算数ともに、応用問題の正答率の4層分布で、第2、3学年ではA層（最上位層）とそれ以外の層の児童、第5、6学年では、D層（最下位層）とそれ以外の層の児童との間に開きがあり、いずれの教科においても学年が上がるほど下位層への手厚い指導が必要である。また、国語では「文章や話を正しく理解する力」、算数では「問題の内容や正しく把握する力」の育成を課題と捉えた。 |
| 【対策】 | ・全学年において、新たに導入されたAIドリルの効果的な活用も図りながら、振り返りや反復を徹底し、学習内容の定着を図るとともに、問題を自主的に粘り強く解決しようという意欲や根気の向上に努める。
・授業では、校内研究を生かしながら、導入の「課題把握・見通し」の段階を一層工夫し、児童一人一人の「主体的な取組」「自力解決」を促すための「内容や方法のレディネス」と「意欲」を明確にもたせるとともに、必ず時間ごとの「まとめ」や「振り返り」を徹底する。
・補充学習においても、「正しく理解すること」や「正しく把握すること」に繰り返し取り組ませ、その必要性や意味を実感させる。 |

結果、2月の区調査問題を活用した定着度確認において、通過率が国語 79%、算数 81%と、目標とした水準（通過率 80%）を達成することができた。

【「豊かな心の育成」「体力・運動能力の向上」「健康の増進」について】

「豊かな心の育成」については、新型コロナウイルスの一定の収束と再拡大が繰り返される中であったが、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のもと、組織的・計画的な取組を行うことができた。さらに一人一人の児童理解をより多面的かつ深く行っていけるよう、努めていく。「体力・運動能力の向上」については、コロナの影響による二極化が顕著であるが、児童に体を動かすことの楽しさ、大切さを実感させ、スポーツ志向を高めることを第一に考えながら、改善に努めていく。「健康の増進」については、よりよい生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協働を推進していきたい。特に、早寝・早起き・歯みがきについては、家庭との連携のもと、習慣化を徹底していきたい。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

様々な面でコロナの影響が続く中、本年度も本校の教育活動並びに学校運営にご理解とご協力をいただきましたことに、感謝申し上げます。次年度、本校の児童数はほぼ900名、学級数もさらに1学級増えて27学級となります。教育活動の実施及びその公開にあたっては、従前の形での実施と可能な限りの公開に努めてまいります。運動会・音楽会等の行事については、分散型での実施やICT等を活用した公開等を指向せざるを得ないことを、何とぞご理解ください。また、ここ3年間、やはりコロナによる制約のあったPTA・地域の皆様との協働につきましては、積極的に推進していきたいと思っております。次年度も、「千寿プライド」の可視化に努めてまいりますので、引き続き、宜しくお願いたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

次年度も、今年度新たに柱立てを行った①GIGAスクール構想）、②SDGs（持続可能な開発目標）、③新しい生活様式（新型コロナウイルス対策）の3点を常に意識しながら、全面実施から4年目となる原稿学習指導要領の趣旨・内容の学校教育へのさらなる浸透・徹底を図り、教育目標に掲げた「知・徳・体・情操の調和のとれた豊かな人間性を持ち、自ら学び、考え、行動する児童」の育成を目指す。